

一三七四番

闇やみの夜よは 苦くるしきものを いつしかと 我あが待まつ
月つきも はやも照てらぬか

一三七五番

朝霜あさしもの 消易けやすき命いのち 誰たがために 千歳ちとせもがもと
我わが思おもはなくに

一三七六番

大和やまとの 宇陀うだの真赤まは土にの さ丹につかば そこもか
人ひとの 我わを言ことなさむ

一三七七番

木綿ゆふかけて 祭まつる三諸みもろの 神かむさびて 齋いはふにはあ
らず 人目ひとめ多おほみこそ